頑張る経営者の
応援サイト

#800006

経営者に知ってほしいがんの知識
／第6回　遺伝より生活習慣

がんは遺伝子が傷ついて不死細胞ができる「遺伝子の病気」ですが、「遺伝病」という見方は誤解です。遺伝はがんの原因の5％程度にすぎません。

まったく同じ遺伝子を持つ一卵性双生児でも同じがんにかかる確率は1割程度にすぎません。逆に、結婚後長い時間をともに暮らす夫婦は同じがんにかかりやすい傾向があります。とくに、肺がんや胃がんでは、夫婦が同じがんになる確率が高いことが分かっています。

がんの原因の半分以上が生活習慣によるものですから、社会のあり方や生活習慣によって、がんの種類も変わってきます。たとえば、最近、韓国に抜かれましたが、日本は長い間、世界一の「胃がん大国」でした。今でも、がんの罹患数では大腸がんに次いで2位です。

一方、白人では、胃がんは日本人の10分の1程度で、米国では白血病を下回ります。しかし、米国でも1930～40年代は胃がんがトップで、今の日本並みに発生率が高い時代がありました。日米の「胃がん格差」は民族差によるものではないのです。

ハワイやブラジルなど、海外に移住した日系人は日本人の遺伝子を持っていますが、かかりやすいがんの種類は日本に住む私たちと大きく異なります。たとえば、乳がんはわが国でも増えているものの、依然として欧米と比較すれば罹患率、死亡率ともに半分にも満たない低さです。しかし、ハワイやブラジルの日系人の罹患率は国内の2?5倍に達します。動物性脂肪などが多い西洋的な食生活が、海外の日本人に乳がんを増やしたと考えられています。

逆に、ハワイへ移住した日本人では、胃がんの発生率は大幅に低くなっています。塩分の少ない食事に変わったことが原因でしょう。一方、ブラジルの日系人では、国内とほとんど変わっていません。ハワイとの差は、塩分の多い日本的な食生活を海外の移住先でも続けたかどうかによるものだと思います。

がんの発生原因の半分以上が、喫煙、飲酒、食事、塩分過多、運動不足などによるものです。そして、男性のがんの約6割が、女性のがんでも3割程度が予防できることが分かっています。

ただし、家系による発がんも全体の5％とわずかですが、たしかに存在します。ハリウッドスターの女優アンジェリーナ・ジョリーさん（42）は遺伝子検査でその異常を知り、両方の乳腺組織と卵巣を予防的に切除しています。次回は「家族性腫瘍」を取り上げます。

以上

※上記内容は、本文中に特別なことわりがない限り、2017年6月26日時点のものであり、将来変更される可能性があります。

執筆者：東京大学医学部附属病院　中川　恵一（なかがわ　けいいち）医師
1985年東京大学医学部医学科卒業後、東京大学医学部放射線医学教室入局。スイス Paul Sherrer Institute へ客員研究員として留学後、社会保険中央総合病院放射線科、東京大学医学部放射線医学教室助手、専任講師を経て、現在、東京大学医学部放射線医学教室准教授。この間、平成15年から26年まで、東京大学医学部附属病院緩和ケア診療部長を兼任。患者/一般向けの啓蒙活動にも力を入れており、福島第一原発後は、飯舘村など福島支援も積極的に行っている。主な著者には『自分を生ききる』（共著）、『緩和医療のすすめ』、『ビジュアル版　がんの教科書』、『がん！放射線治療のススメ』など多数。日経新聞で「がん社会を診る」を毎週連載中。がんの専門家として、人気ＴＶ番組「世界一受けたい授業」にも出演。

■本リポートは、大同生命保険株式会社が提携する株式会社日本情報マートが作成または原資料の提供者の許可を得て提供するものであり、掲載情報の著作権は株式会社日本情報マートまたは原資料の提供者に帰属します。著作権者に無断で複写、複製することは禁じられています。
■本リポートは、情報提供のみを目的とするものであり、本リポートにおいて提供されるいかなる情報も、本リポート利用者の皆様に対し、取引の申し込みや勧誘、あっせん、推奨、助言、金融商品を含む商品やサービスの販売等を目的として提供されるものではありません。
■本リポートに記載された情報を利用または参考として行われた経営上の判断や行為・結果等について、大同生命保険株式会社及び株式会社日本情報マート並びに原資料の提供者は一切責任を負いません。
■本リポート中の表記の方法等については原則として統一しておりますが、原資料の提供者、取材協力者等の意向によって他と異なる表記をしているカ所があります。
■本リポートの全部または一部を予告なしに変更することがありますので、予めご了承ください。